

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of a low chest-to-head circumference ratio with breech or transverse lie: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

胸囲/頭囲比と逆子、横臥位との関連性: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 高知ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine

年: 2024

DOI: 10.1080/14767058.2024.2305678

筆頭著者名: Naw Awn J-P

所属 UC 名: 高知ユニットセンター

目的:

本研究では、エコチル調査において、出生時の胸囲/頭囲比が逆子および横臥位と関連するかどうかを検討し、そのような妊娠の産科的管理について記述することを目的とした。

方法:

本研究では、帝王切開や子宮手術の既往のない母親から妊娠 34~41 週で出生した、先天性異常のない単胎児 83,822 名のデータを解析した。胸囲/頭囲比の 10 パーセンタイル未満、10~90 パーセンタイル、90 パーセンタイル超をそれぞれ低値、標準値(基準群)、高値と定義した。ロジスティック回帰モデルを用いて、胸囲/頭囲比の違いによる逆子と横臥位のオッズ比(OR)と 95% 信頼区間(95%CI)を推定した。また、このような妊娠の分娩時期と分娩様式についても検討した。

結果:

対象となった子どものうち、逆子は 2.6%、横臥位は 0.2%であった。胸囲/頭囲比が低値の群では胸囲/頭囲比が標準の群よりも、逆子(5.2%; 調整後 OR 2.36, 95%CI: 2.10-2.65)および横臥(0.3%; 調整後 OR 2.33, 95%CI: 1.50-3.60)の割合が大きかったが、胸囲/頭囲比が高値の群では逆子が少なかった(1.1%; 調整後 OR 0.51, 95%CI: 0.39-0.66)。帝王切開による分娩児のサブグループ解析(n=7,971)でも、逆子については関連が弱まったが、同様の関連が示された。逆子出産の 83%、横臥位出産の 46.3%は妊娠 37~38 週で起こった。帝王切開は逆子の 96.8%、横臥位の 63.4%で行われていた。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果は、胸囲/頭囲比が低いと胎児が非頭位胎位になりやすいことを示唆している。平均胎児胎盤比は胸囲/頭囲比の各群で同程度であったが、低値群では出生時体重および胎盤重量が最も低く、これは比例的な成長低下を示していると考えられた。本研究の限界点として、第一に胸囲/頭囲比を誤分類する可能性が挙げられ、特に頭位で出生した子どもにおいて顕著であった。経膈分娩で生まれた子どもは頭部に型があるため、頭囲の測定値が誤って低くなる可能性がある。さらに、データが医療記録から転記されたものであるため、出生時の体位に関する情報の誤記載や省略が生じている可能性がある。

結論:

本研究の結果は、胎児の胸囲/頭囲比が出生時の体位に影響する可能性を示唆するものであった。